

2015年の日本経済の課題を考える

法政大学大学院教授 小峰隆夫

- *エコノミスト40人の景気診断は？
- *サック・コストという考え方
- *当初、アベノミクスが成功した理由
- *手足を縛る成功を生んだ政策方針
- *早急に異次元金融緩和の出口議論を
- *財政政策の方向性に疑問あり
- *「円安なら輸出が増える」は古い発想
- *財政再建と社会保障改革も茨の道
- *民意に沿った財政再建は出来ない
- *東京一極集中の是正は正しいのか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今日は法政大学の小峰隆夫先生においていただきます。小峰先生は、東京大学を出た後、経済企画庁に入られまして、白書などをつくっておりました調査局内国調査第一課長、調査局長を経て、経済研究所の所長をされた後、現在は日本経済研究センターと法政大学でお仕事をされておられます。日本経済の調査・分析研究のプロでございます。

今日は、年が明けて、日本経済のさまざまな問題について解説をしていただけだと思います。皆さんもそうかもしれませんが、年が明けているいろいろな問題が山積しているわけでございます。楽観的な方もいらっしやいます。どちらかというとちょっと悲観的な気分の方も

多いと思います。先生も、経済企画庁におられた頃は日本は元気で楽観的だったそうでございますが、最近はどうもちょっとというようなことを先ほどおっしゃっておられました。今日は先生にゆっくり現実を分析していただきたいと思えます。

それではよろしく願います。（拍手）
小峰 皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました法政大学の小峰と申します。どうぞよろしく願います。

今、司会の方からお話ありましたように、私は経済企画庁に30年以上いまして仕事をしている中で、日本経済はたとえば石油ショックだとか、プラザ合意だとか、何回も難しい問題に直面しては、それらをうまく解決してきました。